

『製造現場実践講座』

第2回 講座ダイジェスト

実施日 : 2017年10月4日(水) 10:00-11:00 @京都府産業支援センター 5階 研修室
13:30-17:00 @工場見学(パナソニック 草津工場)
参加人数 : 18名(1名欠席、また午後の工場見学は17名で参加)
担当講師 : 学校法人産業能率大学 顯谷先生

§ オリエンテーション・前回の振り返り

第1会合でお伝えした内容を改めてダイジェストでお話をするところから始めました。

キーワードとして、「生産性を定量的に把握すること」について確認しました。現場ではどのように管理をしているか?把握するためには、基準をきちんと持つこと、そしてその基準で現場を見ることで生じるギャップを捉えることが重要です。製造現場では、そのギャップを改善するための活動をしていくことが必要になります。

前回の課題「自社の生産ロス要因の抽出」について、グループで共有頂きました。

共有された内容として例えば…

- ・段取り換えのロス ・不良・やり直しのロス ・セットアップの時点でミスが起きてしまうことによるロス
- ・道具を探す時にかかる時間がかかることによるロス ・機械設備のトラブルによるロス ・余剰生産によるロス
- ・品数が増えることで材料を探す時間がかかったり、お客様から届く部品が来ていなかったりすることで生じるロス など

がありました。

講師からは、これらロスを減らしていくために重要なことは、できるだけ早い段階で情報を伝え、共有しておくことが肝であり、スムーズな流れを作ることに繋がる話がありました。またロスの中にも人為的なミス、コミュニケーション不足から生じるものもあります。だからこそ、きちんと情報を整理して、互いに思い違いないように努めることが重要であることを確認しました。

§ 午前の講義

1) 第2会合のねらい

第一会合で学んだ内容が、実際の現場でどのように展開されているか?工場見学を通じて、観察の勘所を掴むことをねらいとしました。

2) 工場見学をするにあたり

生産マネジメント(3つの条件(制約条件)、4つの要素(4M))について、見ていただきたいポイントをお話しました。制約の中でいかに諸条件を上手く使いこなしているか?平準化するための工夫をいかにしているか?生産統制(決められたことをきちんとやる)について、意識して見学するようにお話しました。そして、生産マネジメントのあり方、改善を継続させる仕組みなどについても、学ぶことを願いました。

§ 午後の工場見学

工場見学先として、パナソニック株式会社 アプライアンス社 草津工場に訪問しました。

キッチンアプライアンス事業部 食洗機事業統括 工場長の遠矢様に、ご講義と工場見学をご案内頂きました。

見学工程は2班に別れ、食洗機の製造工程を見学→モノづくり学校や安全体感道場、からくり道場の施設を見学させて頂きました。

1) 工場長からの講義・質疑応答からのメモ

現在現場では「魅力あるモノづくりで三方良し（①お客様のお役に立てる工場 ②グローバル社会のお役に立てる工場 ③働く人が幸せになれる工場）」を目指して、工場に務める全員の保有能力、潜在能力を最大限に活かすように日々尽力されている話を伺いました。また現場の改善に対する考え方、意識として、「現場の素直なお困りごと(重い、きつい、危ない、やりにくい、汚い、うるさい、暑い、寒いなど)」をちゃんと吸い上げて、そのお困りごとがなくなるまで徹底して取り組むことが大切であるという話を伺いました。更にその働く人の「自尊心」を大切にしながら 活動の工夫から得られる前向きな気持ちを思い大事にしている工場長のスタンスもお聞きすることが出来ました。

こうした現場で働く人が主体的に動くことができるように、いまいる社員誰もが同じ仕事ができるようにする考え方として、幾つかのヒントをお聞きしました。例えば、ローテーションを都度行い、柔軟な対応が出来る体質をつくることであったり、スキルに頼らない工程設計・製品設計を行ったり、男女や職務経験などによる配置をせず、いまいる社員全員を活かす配置を行ったりする工夫などです。

受講者からは、自社の風土や製品などを考えると非常に難しかったり、悩ましかったりする部分があったようです。ただ今回の学びをいかにして自社にとってのヒントに変えるか、活かそうと想像を膨らませられるか。講師から補足説明をしながら受講者に気づきを促していきました。

2) 工場見学での様子

遠矢工場長からご説明をいただく様子



§ 課題の案内

今回の工場見学での学びを、以下の観点で振り返り、気づき・感想をシートに記載する。

主な観点（1. 現場の生産性改善の工夫 2. 原価を下げるための管理を読み解く

3. 改善を継続させるしくみとボトムアップ活動 4. 自社で取り入れたいしくみや考え方）

次回の会合で、受講者間共有をします。

以上